

『かんかくとうごう』って何??

「かんかく」と聞くと、皆さんは何を思い浮かべますか？

「視覚」 「聴覚」 「味覚」 「臭覚」 「触覚」

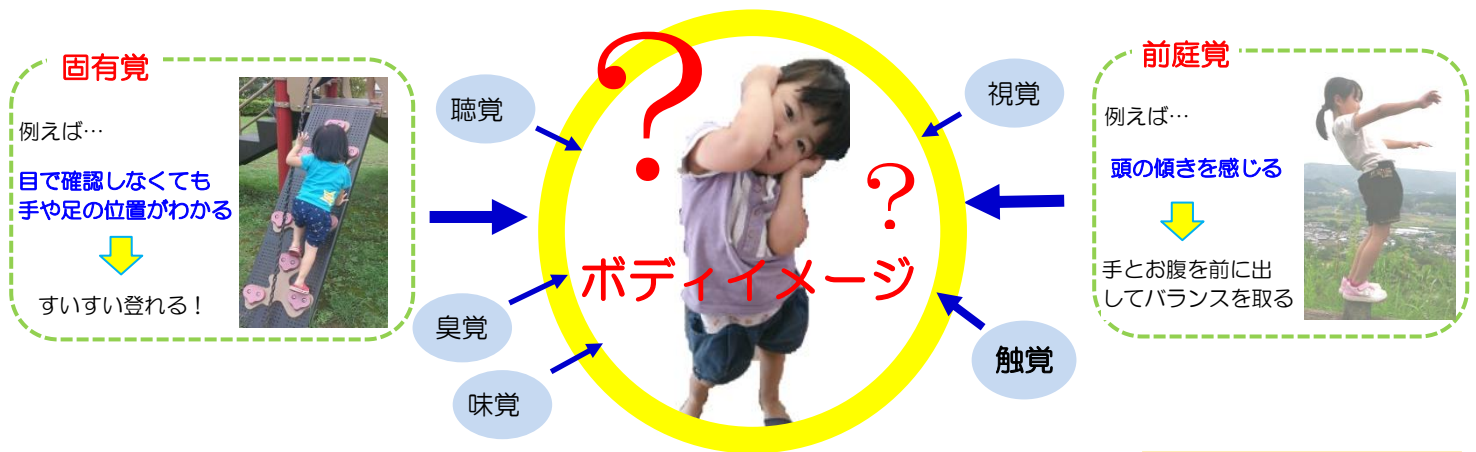
といった五感と言われるものが一般的ですが、実はそれ以外にも

「固有覚：関節や筋肉の動きを感じとる感覚」

「前庭覚：バランスやスピードを感じとる感覚」 という大切な感覚があります。

そしてこれらが合わさって

「ボディイメージ：自分の体のサイズや動かし方の実感」 ができています。



教習所で車の運転を習った時のことを思い出してみてください。

初めのうちは、車幅やタイヤの向き等をうまくつかめずに、肩に力が入ったぎこちない運転になっていませんか？



この状態はつまり、「車のボディイメージ」をうまくつかめていない状態です。

もし、このボディイメージをつかめていない状態が、自分の体で日常茶飯事だったとしたら…

近年、発達障がいの方が大人になって自分の経験を本にされることが増え、その感覚の特異性が注目されるようになりました。

例えば…

「コタツに入ると
足がなくなる」



「傘をさすと
どこまでが自分の腕か
わからなくなる」



なんだそりゃ?!

これらは「固有覚」の情報整理がうまくいかないことで、視覚に頼らなければ自分の体を実感できないという状態です。

このように、発達障がいを持つお子さんは、自分のボディイメージがうまく育っておらず、様々な場面で支障をきたしていると言われています。



「感覚統合療法」では、
体を使った「あそび」を通して、感覚やボディイメージの成長を促すことを目指しています。

～ 今、子ども達の遊びの大切さが見直されてきています☆～

近年子ども達のあそびの環境は大きく変化してきました。

発達障がいと診断される子ども達が増えてきた背景として、こんなことも言われています。

「たっぴりと外遊びができる環境と、子どもどうしの縦割りのあそび集団があり、豊かなあそびが保証されていた時代には、発達の機能がめいっぱい促進され、多少の発達の偏りは自然治癒できていたのではないか…」

健常児と言われる子ども達にも、感覚の発達が未熟な子ども達が増えてきています。



子ども達は本来、あそびの天才です♪

子ども達が体を使って思いっきりあそぶ、わくわくした時間、大切にしていきたいですね。



姫路獨協大学では、大学の地域連携・貢献として発達障がいなどによって特別な支援が必要な方々へのサポートに取り組んでいます。

- ・プレイルームの遊び場サポートとしての開放「わくわく」
- ・ホースセラピー教室「馬力の会」

